

ルシャ川の今後の対応方向についての地元説明会

開催概要

開催日時 平成 26 年 8 月 1 日（金）14 時 00 分～15 時 30 分

開催場所 北海道森林管理局知床森林生態系保全センター（斜里町ウトロ）

開催目的 第 36 回世界遺産委員会における決議事項の対応を進めるに当たり、ルシャ川の今後のあり方についての議論を深めるため、現時点で想定している対応策等について、行政側から地元漁業者への説明を行う。

出席者

| | |
|--------|--|
| 漁業関係者 | 斜里第一漁業協同組合、ウトロ漁業協同組合、知床丸共同漁業部、一般社団法人北見管内さけ・ます増殖事業協会 |
| 関係行政機関 | 林野庁北海道森林管理局 北海道生物多様性保全課、治山課、オホーツク総合振興局林務課 環境省釧路自然環境事務所、斜里町 |

開催概要

◇ルシャ川に関する経緯説明

ルシャ川に関する経緯及び今後の改良に係る検討案について北海道から説明

◇漁業関係者からの意見【主な意見】

- 第 2 案でやった場合、流木などが海へ流れていく確率は高くなる。素人的な発想だけでも、何もないわけだから、どんどん流れる。ただ、そういう部分を浜は心配している。下流でそういう対策を併せてやってもらわなければ、単にダムだけの問題ではだめだろうと思う。
- 我々も、河床を大事にしてもらいたいし、天然魚ということでも必要なのだと思う。
しかし、2 次的に、ダムをやった後の後始末はどんなものか、それをモニタリングした結果で次のステップへと移るのだろうと思うけれども、浜としては、ダムの改良だけではない。2 次的に出てくるものについても、行政として、ぜひいろいろなことを検討していただきたい。
- ルシャの番屋もあるし、それが道路決壊という形の中で、ままならぬ状態にもなるから、そういうことも行政の方で検討していただければと思う。
- どのような工法の中で改良すれば一番いいのかが論点になると思うが、やってみなければわからないことが結構あるのではないか。
- これだけ気象が変わってきている中で、思わぬ事態が発生する可能性もあり、漁業にどれだけ影響が出てくるかということが気になる。前に進まなければならないので、ある程度のリスクも頭に入れた中で、それぞれの専門家も含めて一番いい方向を協議していただいて、その中で進めざるを得ないと思う。
- ダムを改良しても、その後何年間もモニタリングしながらやっていかなければならないから、1 年や 2 年で効果が出てくるわけではないし、すごく変わっていくと思う。水の流れも、去年と今年、今年とその次でがらっと変わるかもしれないし、それから何年かたつと、また元に戻すようになるかもしれない。これはわからないと思う。
- そこで漁業を営んでいて漁場を持っている方がいるので、そこに対する影響がいろいろと出てくると思う。

- 今までどおりになれば一番いいけれども、改良あるいは撤去ということになると、漁業者全般的にまた陳情というようなことも出てくると思われる。
- ルシャ川というのは独特で、カラフトマスには適しているが、サケの再生産河川としては難しい。
- あそこには直接関わる漁業者がいるので、漁業をする道路をどう確保するか、橋を今後どうするかということを踏まえて考えていただきたいと思う。
- モニタリングした結果で、現状がこうであって、次のステップになるとこうなりますよというのは、何かがあればすぐわかるのだろうが、言葉だけではわからない。本当にそれほどのことが必要なのか、疑問符を出さざるを得ない。
- 産卵床を造ったとしても、ほとんど全部流れてしまうのが現状ではないかと思う。
- もともとサケの川ではないので、放流をやめると、サケはだんだんいなくなると思う。横のテッパンベツ川は、毎週見に行き、1年間を通して1本しか見つけることができなかった。
- 築堤は人間が造ったもの。だから、その辺を解除してやると、その様相は大分変わると思う。
- もしも工事をするとした場合の時期はいつになっても、ある程度リスクは必ずかかる。あれもだめ、これもだめと言っていたら、全然話にならない。
- 工事をするとしたら、時期は6月から、いいところ7月。7月に右岸側へ切り替えしてしまうと、あとは濁らない。
- 今あいている穴の倍ぐらいなければ（魚は）通っていけない。

参考：平成26年5月28日開催「河川工作物アドバイザー会議 検討会」で示された方向性

- ・ ダムの改良については多少意見の相違はあるかもしれないが、できれば堤体をすべて下まで切り落とす。いわば水制的な形にするのが将来的なメンテナンスや間隙の流れも含め復元できるのではないか。どの幅に切るかについては、今後煮詰めていく。
- ・ 築堤についてはなんらかの形で撤去する方向を考えていただきたい。
それによりもう少し違う水の流れ方ができるだろうということ。
- ・ 右岸側にある湧水についてはプール状になっており、この湧水が上手く遡上したサケが利用できる可能性も含めてなんらかの形でもう一度復元したい。なお、方法については切るだけが一つの方法なのか、穴を空けるような議論はあるかもしれない。
- ・ 最下流部の現状について、他の部分がある程度決まった段階で下流域についての河道の形状に少し手を加えたほうがいいのではないか。